

# 議会だより入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 188

2019年1月27日



じゅわ〜と  
にゅぜん

12月  
定例会

## 目次

## 新雪に遊ぶ(中央公園)

飯野統合保育所整備に着手	2 P
不妊・不育症治療費の増額(常任委員会レポート)	4 P
町政を問う 代表・一般質問(11議員)	7 P
特別委員会レポート	18 P
特集!結婚応援事業	20 P



# 飯野統合保育所(仮称) 整備に着手

## 補正予算の概要

12月定例会は4日から19日までの16日間開会され、町長から提案された平成30年度補正予算2件、専決事項の承認1件、条例制定などの議案6件のほか、議員提出議案2件を審議し、すべて可決した。さらに、9月定例会で継続審査とした平成29年度決算を認定した。また、選挙管理委員、同補充員の選挙を行った。

## 条例の制定と改正

次の条例案を審議し、可決した。  
入善町子ども医療費助成に関する条例の制定  
子どもの医療費無料化を現在の中・小学生から高校生まで引き上げる。

入善町夢みる青少年育成基金条例の制定

泉英明氏からの新たな寄付金を基金として積み立て、その運用などを明確にする。

入善町の職員の給与に関する条例の一部改正

入善町長等の給料その他の給与及び旅費支給条例及び入善町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正

## 議員提出議案

入善町議会会議規則の一部改正

新しい質問方法を導入するに当たり、発言場所および質問方法に係る規定を設ける。

入善町議会傍聴規則の一部改正

傍聴人の個人情報をより適切に取り扱うため、「傍聴人受付簿」を「傍聴人受付票」に改める。

賛成全員で可決

○企業立地推進事業費

7510万円

カナヤママシナリー(株)新工場建設の決定に伴い、企業用地造成工事に係る設計委託料を計上する。また、企業立地奨励助成金と中小企業設備投資促進事業補助金を増額する。

○すこやか親子推進事業

600万円

不妊治療費等助成金を申請件数の増加に伴い増額する。

○学校施設維持管理費

1080万円

台風21号で破損した入善中学校グラウンド防砂ネットの復旧工事を計上する。

## ◎主な事業

○保育所整備事業費

6億5020万円

飯野統合保育所(仮称)整備に係る本体工事費、外構・附帯工事費を計上し、2020年4月の開所を目指す。

○教育振興費、国際・地域間交流推進事業費

5000万円

泉英明氏からの寄付金を、二つの基金に積み立てる。



破損した防砂ネット

# 12月定例会の議決状況

議案番号	氏名	鍋嶋慎一郎	鍵田昭	池原純一	井田義孝	本田均	中瀬淳哉	田中伸一	五十里忠茂	五十里国明	野島浩	松澤孝浩	松田俊弘	元島正隆
承認第9号	専決処分第13号 平成30年度入善町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第39号	平成29年度入善町一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○
議案第40号	平成29年度入善町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第41号	平成29年度入善町簡易水道特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第42号	平成29年度入善町育英奨学資金特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第43号	平成29年度入善町下水道特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第44号	平成29年度入善町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第45号	平成30年度入善町一般会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第46号	平成30年度入善町下水道特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第47号	入善町子ども医療費助成に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第48号	入善町夢みる青少年育成基金条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第49号	入善町の職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第50号	入善町長等の給料その他の給与及び旅費支給条例及び入善町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第51号	黒東合口用水組合同規約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第52号	飯野統合保育所(仮称)整備事業に伴う用地の取得について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員提出 議案第5号	入善町議会会議規則の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員提出 議案第6号	入善町議会傍聴規則の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選挙第1号	入善町選挙管理委員の選挙について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選挙第2号	入善町選挙管理委員補充員の選挙について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 平成29年度決算認定

一般会計は賛成多数で、その他の5特別会計は賛成全員で認定した。

## 用地の取得について

次の事業に伴う用地取得を可決した。

◆飯野統合保育所(仮称)整備事業

取得用地 東狐101番1 ほか4筆  
面積 8348㎡

## 選挙管理委員、同補充員の選挙

平成30年12月25日で任期満了となる選挙管理委員、同補充員を選挙した結果、次の8名が当選した。(任期は4年)

〔委員〕 上原正三氏(入膳)

西川正雄氏(青木)

飯田好子氏(上飯野新)

山本建雄氏(舟見)

〔補充員〕 上野和博氏(小杉)

西田義嗣氏(横山)

吉島勝伸氏(道市)

高島博志氏(新屋)

# レポート

## 総務 常任委員会

来年4月の開所を目指す飯野統合保育所(仮称)

今回の補正予算で、飯野統合保育所(仮称)の整備事業費のうち6億1870万円が町債に計上されている。

このタイミングで計上した理由は、

当初予算では、概算で用地費や造成費を計上していた。今回の補正は基本設計が固まったため、工事請負費を計上した。

来年4月の開所を目指し、今年度3月に工事発注し、1年かけて建設したい。

調理場内の配置が良くないのではないかと地元や実際に使う方の意見は聞いているのか。

意見は聞いている。管理栄養士からも意



飯野統合保育所(仮称)のイメージ図

見を取り入れている。  
事務室から保育所全体を見渡すことができず、セキュリティ面は大丈夫なのか。  
事務室からセキュリティ面を管理する概念は無い。  
それぞれの場所で、保育士がしっかりと対応する。

不妊・不育症治療費の助成申請件数が33%アップ

不妊・不育症治療費補助費として600万円を追加計上している

申請件数はどれだけ増えたのか。

10月末現在で、56件の申請がある。昨年の同時期に比べて33%の増加だ。

また、高度な治療を受ける方が増えているほか、県の助成の締め切りが年度末であることから、今回補正を計上した。

不妊・不育症治療の実績はどうか。

今年度41組がこの制度を活用し、10人が妊娠されている。

平成29年度の実績は、55組が制度を活用し、91回受診、18人が妊娠されている。

この事業のように、しっかりと実績が上がっている施策は、もっとPRすべきだ。

1人でも多くの子どもが生まれるよう、今後、精一杯頑張りたい。

地方税共通納税システムが10月スタート

賦課徴収事務費216万円とあるが、内容は、

今年10月から全国一斉に地方税共通納税システムが稼働する。

約1600の町内外の事業所で、そこで働く町民の個人住民税を徴収してもらっている。

新システムでは、事業所はネットバンキングを通じて、町へ納付することができるようになる。

すべての町内保育所でエアコン設置済み

保育所維持管理費で燃料・光熱水費が280万円増額されている

これは、今夏の猛暑によりエアコンなどの電気代が多くなったためだと聞いている。

町内保育所のエアコン



保育室に設置されているエアコン

設置状況はどうか。  
すべての保育所の保育室に設置してある。ただし、遊戯室には設置していない。

### こんな意見も

◎用水路での転落事故で亡くなる方が多い。しっかりととした安全対策を。



# 常任委員会

## 産業教育 常任委員会

台風21号による白ネギ被害に補助金計上

園芸特産振興費、15万8千円の内容は。

台風21号の被害に対する緊急対策としての補助で、白ネギ生産組合に補助をするものだ。

補助対象になった作付面積はどのくらいで、その対象内容は。

白ネギの作付面積は約300㍓で、そのすべてが被害を受けており、防除に支援する。被害の半分は、茎葉折損であり、その対策に計算して助成をする。

なお対策費総額は、県・町・J A ・組合で4分の1ずつ負担する。

園家山でマツクイムシ被害木の伐倒処理

林業振興事業費30

3万円の内容は。また、被害木の今後の処理は。

9月下旬に県との合同調査で97本の枯損木を確認し、今年度中に追加の伐倒処理を行う。100%県の補助金だ。今後は、改めて調査し、県と協議しながら対応していく。



山積みされたマツクイムシ被害木

町内中小企業の設備投資に補助金の増額

中小企業設備投資促進事業で交付件数が増加とのことだが、その内容は。

当初予算は2千万円で、津根精機(株)に179万円、(株)津根ワグナー・カーバイトに272万3千円を交付済みである。

新規交付はシロウマサイエンス(株)の1件で、3060万800円だ。今回はその不足分として、1520万円を補正した。

補助対象となる企業の投資内容は。すべてが償却資産で、機械設備だ。

破損した入善中学校の防砂ネット復旧へ

学校施設維持管理費1080万円の内容は。

台風21号で破損した入善中学校グラウンド防砂ネットの復旧費、た東西に支柱を17本新設し、ネットを高さ5メートルまで整備する。

杉沢の沢スギ災害復旧に225万円

杉沢の沢スギ林の台風被害の実態はどうか。

平成29年の台風では99本、今年度は31本だ。

倒木したのは何割程度か。

また、林外に搬出されていない被害木は、今後どう処理されるのか。

倒木や傾いた木は一部程度だ。今年度の倒木など31本



台風で倒れたスギ

については、今回の補正で伐採処分を考えており、台風被害対策は今年度で終了となる。

平成27年度から間伐や伐採、剪定を計画的に実施してきた。今後の整備については、検討していく。

### こんな意見も

◎学校の不審者情報がメールで発信されている。その後の対応や先生方の対応、連携について報告が必要だ。

# 平成29年度決算を認定

## 決算特別委員会レポート

### 審査の経過

平成29年度一般会計および特別会計について、9月20日から、担当課長の出席を求め添付資料などの説明を受け、質疑など6回の委員会を開催し審査を行った。

10月23日には、にゅうぜん保育所をはじめ、杉沢の沢スギ、海洋深層水活用施設、園家山の松枯れ、西部再生広場、総合体育館、図書館などの状況を視察した。

### 付託案件は全て認定

10月29日に総括質疑、討論、採決を行い一般会計決算については、賛成多数で認定すべきとし、国民健康保険や下水道など特別会計5議案については賛成全員で認定すべきものと決した。

### 主な審査意見

#### 町税の未納額縮減に向け努力を

町税の収納率は全体で96・81%と県内でもトップレベルだ。しかし、税負担の公平性確保の観点から、悪質な滞納が無いか事情を確認し、未納額縮減に向けた取組みに努力されたい。

#### 健全財政を堅持し重要施策の推進を

財政の弾力性を示す経常収支比率は、標準とされる70〜80%を超える83・4%だが、財政力指数は前年度同様の0・54で健全財政を堅持している。

町の財政規模に対する借金返済額の割合を示す実質公債費比率は11・7%で、前年度比1・7ポイントの増である。また、将来負担比率

は前年度を3割上回っているが、要因は、公営企業債に充当される一般会計からの繰出見込額の増で、注視されたい。

いずれも早期健全化基準を下回っているが、今後も歳入面では人口減少による町税の伸び悩みや社会保障、施設の改修・更新費用の増加が見込まれる。

当局には事業を精査し、重要施策の着実な推進を望む。

#### 自分たちで問題解決を図れる地域に

元気な地区づくり応援事業補助金は今年度補助額が拡充され、約90%の自治会が取組んでいる。

一方、地域コミュニティ・パートナーシップ構築事業は、いまだ全地区での協議会設立には至っていない。先進地域の手法を研究し、積極的に取り組んでほしい。

#### 介護人材の確保に一層の努力を

介護人材確保のための町支援事業は評価するものだが実績はまだ少ない。

これまでの成果や問題点を分析し一層の努力を求める。

#### 子育て支援を好評価

子宝支援金の拡充については評価したい。

また、心配された大規模な「にゅうぜん保育所」は支障がなく運営されている。

妊娠期から子育て期の保健センターなどのサポート情報が載っている「子育てナビ」は評価する。

今後も一層の子育て支援の充実に努めてほしい。

#### 有害鳥獣対策の充実を

カラス、イノシシ、サルなどの被害が増加傾向であり、有害鳥獣対策の取組みの充実を図っていただきたい。

#### 下水道会計の現状など丁寧な説明を

下水道事業では、整備費の償還が大きな負担となっている。現状と今後の見通しについて、町民に丁寧に説明すべきだ。



海洋深層水取水ポンプ室の視察

相次ぐ震災、急がれる庁舎の耐震化

町長

既存庁舎の耐震化でなく  
建て替えによる整備へ



建て替えが予定される役場庁舎

**問** 庁舎の耐震化や今後の役割を含め、町の将来像を掲げたグランドデザインを示すべきだ。  
**笹島町長** 現庁舎は、構

造物や設備が著しく老朽化している。

また、時代の変化とともに増えていく行政需要への対応や、加速する事務のOA化、IT化などにより、業務スペースが不足している。

議会の庁舎整備検討特別委員会や、まちづくり懇談会での町民の意見を総合的に勘案し、建て替えによる耐震化の方向で整備することとした。

建て替えの場所については、町の将来像や全体像における庁舎の役割などを鑑み、どの場所が適切であるか、今後の課題として、さらに検討していく。

総合計画の進捗状況はおおむね計画どおりに進捗している

**問** 第6次町総合計画の進捗状況はどうか。

また、新年度の重点事業は。

**町長** 総合計画に照らし合わせた今年度予算の執行状況は、おおむね計画どおりに進捗している。

平成23年度からの進捗状況については、毎年実施している実施計画のローリングにおいて、事業の進捗状況や目標の達成状況を確認している。新年度の重点事業につ

いては総合計画の着実な推進はもとより、まちづくりの基調である「もつ」といい街、住みよい入善を実現するための3つの柱に係る事業に対して、引き続き、予算の重点配分を行っていく。

太平洋側の震災時に備え富山湾の整備を

災害時に富山県の果たす役割は大きい

**問** 南海トラフ・首都直下地震が発生し、東京など太平洋側が災害に見舞われた場合、国土交通省は北陸圏が代替地になるとして整備すると発表した。

富山湾、新川海岸は代替港となる可能性があると思うがどうか。

**町長** 国交省は太平洋側

の巨大リスクに対し、日本海側をセーフティネットとして捉えている。県も巨大リスクに対して、日本海国土軸の中核となる富山県の果たす役割は大きいとしており、「太平洋側の代替性確保」を県独自の目標に掲げている。

国交省は、災害時での名古屋港や京浜港、大阪港、神戸港などの代替港として、日本海側の5つの港を示している。

町としても急激に深くなる富山湾の特性を生かせば、新川海岸は代替港に値するものと捉えている。県など関係機関に対して情報収集を行い、その可能性について調査していきたい。



元島 正隆 議員（アクセス）





予約体制の改善が求められる乗合タクシー

## 乗合タクシー「午前の予約が取れない」との苦情の原因と解決策を示せ

キラキラ 商工観光課長

### 予約体制の改善と予約方法の周知が必要



松田 俊弘 議員（日本共産党）

**問** 9月から運行システムを導入し1時間前までの予約としたが、住民から「午前中は電話がなかなか通じない」「3日間

電話したが、結局午後に戻された」などの苦情が寄せられている。原因と解決策を示せ。

**梅澤キラキラ商工観光課長**

利用者は、9月以前より1日5人程度増えた。オペレーターが複数の送迎時間を示し、希望をとる形になったため、電話が長くなっている。予約体制の改善と予約方法の周知に取組む必要がある。

**運賃割引に精神障がい者も加えるべき**

**必要性を精査し慎重な対応が必要**

**問** 町営バスと乗合タクシー

### 周知が必要

シーの運賃では、身体障がい者と知的障がい者は割引されるが、精神障がい者は対象外だ。

朝日町や黒部市では精神障がいも対象にしている。町もそうすべきだ。

**梅澤課長** 必要性を精査した上で、慎重に対応しなければならない。

**町営住宅退去時の多額の修繕費負担は減免を一括で払えない場合は分納に応じている**

**問** 舟見町営住宅で30年間住んでいた人が退去する際、畳の表替えや襖の張り替えに約19万円請求された。駅南住宅では27

万円程度になるといふ。しかも生活保護受給者には支援は一切ない。

国のガイドラインは、アパートなどで経年変化

および通常使用による摩耗では、貸し手側が負担すべきとしている。

町営住宅退去時に多額の負担を求めるのは、民間とかけ離れている。

京都市は、5年ごとに減額し15年でゼロにしている。町もこれにならつて制度を改善すべきだ。

**米田住まい・まちづくり課長**

公営住宅の家賃は、民間より低く設定されている。

また、建設後の建物減価の減額が家賃に反映されている。よって、経年劣化分は家賃に含まれているとはみなせないとの裁判例がある。

町は、負担が大きくて

一括では払えない場合には、分納に応じている。

**職員数を確保し代休取得困難な体制の改善を必要に応じ定員を見直し適正確保に努める**

**問** 役場職員の超過勤務が常態化し、代休取得もできていない。

業務量と人員配置を再確認し、必要な職員数を確保すべきだ。

保健師や調理師は、正規で採用すべきだ。

**町長** 事務事業や組織機構の見直しによる体制強化を図っていく。

必要に応じて定員管理計画を見直し、職員数の適正確保に努める。

保健師を2名増員しており、調理師についても、昨年4月には2名を正職員として採用した。



「入善ジャンボ西瓜」の生産振興への取り組みは

がんばる 未来へ引き継ぐため 農政課長 積極的な展開を図っていききたい



出荷が待たれる入善ジャンボ西瓜

**問** 約120年の歴史がある入善ジャンボ西瓜の現状はどうか。特産品として継承していくための取組みをどう考えるのか。

**小堀がんばる農政課長**

生産者数、作付面積で見ても、平成18年で22戸8畝だったのが、今年は13戸3・8畝にまでに減少しており、大変な危機感を持っている。

町は後継者の育成を図るため、JAみな穂と合同し、平成23年度に「入善町特産品栽培・新規就農支援事業」を創設した。種苗費や資材費、肥料費などの支援により、平成24年度に1経営体が新しく生産を始めた。また、平成28年度に「入善ジャンボ西瓜新規栽培促進事業」を創設し、担い手農家などを対象

に、生産組合の指導のもと、5株程度の栽培にチャレンジし、将来的に本格栽培へとつなげていきたい。

本格栽培へと移行すれば、最初は生産が安定しないというところで、この事業に追加された所得補償的な支援も受けられる。事業開始以降、11経営体でチャレンジし、本年度で4経営体が本格栽培へと移行された。さらに、来年はもう1経営体で、本格栽培を始めていただく予定として

一方で、高齢化などにより、栽培をやめる生産者もいることから、作付面積や生産者数の減少に歯止めが掛かっていないのが実情である。

町としてもさらに、後継者の育成のための事業のほか、優良種子の育成に係る助成や、生産組合への活動助成など、さまざまな角度から支援を行っていききたい。

**入善高校存続に向け 特色ある研究に支援を 学校の魅力づくりや活性化に対し支援したい**

**問** 現在、入善高校農業科では2、3年生で行う課題研究で、商品化を目指したエゴマの栽培や、入善乙女キクザクラの増殖などといった多くの研

究をしている。

これからの農法としてのICTやAI、GPSを活用したスマート農業などの研究に支援し、入善高校存続に向けてのアピールにつなげてはどうか。

**町長** 農業を基幹産業とする入善町にとって、入善高校での取組みは存続に向けたアピールにもなると考えている。

最新の農法を研究してもらうことは大変重要な視点である。

県立の高校である入善高校に対して直接的な支援はできないが、入善高校と情報交換を行う中で、研究として取組むことに対して、どのように支援ができるかについて、調査を進めていきたい。



鍋嶋 慎一郎 議員



選手と一緒に楽しくだ獅子舞

## 地域の伝統文化の交流や競演会を催してはどうか

### 教育委員会 主体的な実施が大切で 事務局長 手助けできることを見極めたい



池原 純一 議員

**問** 教育委員会は郷土芸能関係資料をまとめているが、祭りなど担い手の活動は、大きく様変わりしているのではないか。

これらの伝統文化など再調査をする考えはあるか。

**板倉教育委員会事務局長**

ご指摘の追跡調査は定期的にを行うべきものと考えている。

取りこぼしのない調査となるよう、また、回答していただく方に負担がないよう、調査方法や調査項目の検討をしっかりと行った上で取組んでいきたい。

**問** 町側が把握していない問題点多々あるかと思うので、行政として解決に向けて手助けできることがないか、研究を進めていきたい。  
**答** 保存団体による文化

交流や競演会を催す考えはあるか。

**板倉局長** 獅子舞や天狗

舞の実施団体が競演をする場があれば、単に舞を披露するだけではなく、お互いに切磋琢磨し、情報交換の場にもなる。

また、地域と地域のつながりがさらに深まり、後世へ伝えていく活動にも発展していくことが期待される。

**問** 各団体から自主的かつ主体的に競演会を実施するような機運が醸成されるのが大切だと考える。地域の元気につながっていくよう、町として手助けできることをしっかりと見極めたい。

ねりんピック競技のカローリング普及を世代を超えての普及を図る

**問** 11月のねりんピックで、本町ではカローリングが開催されたが、その総括はどうか。

また、カローリングの普及を図っていく考えはあるか。

**町長** ねりんピックの開催は、健康寿命の延伸を掲げる本町にとって、大変意義深いものであった。

現在、福寿会にお願いして、町カローリング大会を開催している。今後高齢者スポーツとしての普及と拡大にご協力いただきたい。

加えて、夏休み親子スポーツ教室やPTAの行事にカローリングを取り入れ、高齢者のみならず

世代を超えてカローリングを楽しんでいただけるよう、関係団体と協力しながら普及を図っていきたくと考えている。

スマートICから国道8号間の道路改良は  
拡幅工事は大きく前進している

**問** 県道入善宇奈月線の入善スマートIC入口から国道8号の区間は、極めて重要である。

早期に整備をするよう関係機関への働きかけが必要と思うがどうか。

**窪野建設課長** 町の背骨道路であり、重要な幹線道路である。

現在、新屋上村工区と神林工区の2区間で、同時に拡幅事業を実施中だ。これらの事業の進捗状況を確認しながら、県へ働きかけたいと考えている。



「選択されるまち」となるよう

町独自の施策は

町長

安全・安心、健康で豊かに暮らせる  
地域づくりが必要だ



新しく導入した小型ロータリー車

**問** 町長は2期目の町政スタートに、町内外を問わず、人や企業から「選択されるまち」となるため独自の施策を展開した

いと述べたが、どのような施策を考えているか。

**町長** 私の政治信条である「もつといい街、住みよい入善」は、少しずつでも町を前進させたい、変えていきたい、良くしたいと言う意味が込められたものであり、町長就任以来、まちづくりの基調としている。

このテーマには「皆さんの笑顔があふれる街づくり」と「子どもたちの声が響きあう地域づくり」の2つのコンセプトを掲げており、これは、私の目指すまちづくりの指針である。

まずは「皆さんの笑顔があふれる街」とするた



五十里 国明 議員

めに、安全、安心な地域であることに加え、健康で豊かに暮らせることが必要と考える。

今年是全国で災害が頻発した年であったが、対岸の火事ではなく本町で起きる可能性もある。

そのため、耐震基準を満たしていない役場庁舎が災害時の拠点となることから、場所は未定であるが建て替えることで防災、減災の拠点として整備したい。

健康であり高齢になっても元気で過ごせるよう「減塩いいね！プロジェクト」や「健康ポイント事業」など、さまざまな取組みを行っている。こ

れらを町民運動にまで発展させる機運の醸成を図りたいと考えている。

また高齢者の外出支援や生きがい対策の充実、介護予防事業、認知症対策にも力を入れたい。

さらに、豊かな暮らしのためには、企業誘致と地域産業の活性化は必要不可欠と考えている。

黒部市に本社がある、真空機器製造のカナヤマシナリー(株)の上飯野での新工場建設の決定など、新規企業の誘致に全力を尽くしたい。

**除雪についての要請や物損被害は被害箇所は完了している**

**問** 直近3年の除雪に関

する町民からの要請、物損被害の件数はどのような状況か。

**窪野建設課長** 要請件数は、平成27年度70件、28年度22件、29年度201件であった。

昨シーズンは記録的な豪雪であったことから、件数が多かったと考えられる。

物損被害の件数は、平成27年度45件、28年度42件、29年度99件であった。

内容は、道路上にある防護柵や道路標識、安全施設の破損、側溝グレーチングの破損が大部分だ。降雪期の終了時期に、被害箇所は完了している。



予約体制の強化を(ウチマエくん予約センター)

公共交通は町が事業主体となり

運営していくべきだ

町長

契約に基づく形での責任の明確化が必要になってくる



中瀬 淳哉 議員

**問** 町は平成29年度、公共交通最適化調査を行い、9月から公共交通の実証実験を行っている。  
新幹線ライナーの実証

実験の状況はどうか。

**梅澤キヲ** 商工観光課長

新幹線ライナーでは、2ルートを設定した。

月々金曜日は入善駅を出発し、県道・国道など町内主要幹線道路沿線を經由するルートとした。

土・日曜日は、停留所を増設し、町民利用の増加を図るルートとした。

これまでの実証実験の結果、従来からの停留所が主に利用されており、ルート変更や停留所増設の効果はほぼ現れていない。

土・日曜日ルートは、従来路線に準じており、一定の周知度と需要が確保されていると分析して

いる。

**問** デマンド交通「ウチマエくん」の実証実験の

状況は。

**梅澤課長** ウチマエくんでは、予約システム「コンビニクル」を活用し、当日1時間前の予約を實現した。

そして、運行開始を朝8時30分とした。目的地は、28カ所を増設し計63カ所とした。

その結果、実証実験期間の利用人数が実験前より、1日平均約5人増加している。

また、75歳未満の方の利用割合が増え、以前の5%程度から約10%に向上した。

その一方で、新たに増設した目的地での下車人数は全体の約7%となっており、目的地増設の効果はまだ限定的である。

また運行事業者から、予約システムが作成した運行計画は、従来よりも非効率な運行が目立つとの見解が挙げられている。

これは、利用者の予約要望時間を優先するように設定しているためだ。

従来方式では、1時間1台当たりの乗合数が約2・1人であったが、実証実験では1・8人とどまっている。

今後は、予約システム導入に伴う改善の効果が大きなものとなるよう、利用者へのさらなる周知と、より効率的な運行体制を運行事業者とともに考察していく。

**問** コンビニクルを導入したが、予約センターでは1名のみが対応している。強化を図るべきだ。

**梅澤課長** 利用者からは、不便になったという声も聞いている。予約センターの諸課題に対する改善方法について考察したい。

**問** 新幹線ライナーとデマンド交通は事業者が運営主体で町が補助をしている。

公共交通を維持していくためにも、町が事業主体となって委託し、運営していくべきだ。

**町長** 行政としての町の責務とその担い手となる運行事業者の責任について、契約に基づく形での責任の明確化が必要になってくると認識している。



## ケアネット活動の現状は

保険福祉課 地区によってばらつきがあり  
取組み率を引き上げていきたい



玄関先での声かけ(ケアネット活動)

**問** ケアネット活動の現状をどのように捉えているのか。

**真岩保険福祉課長** ケアネット活動は、全国でも

富山県だけが行っている先進的な事業である。

子どもから高齢者まで、支援を必要とする方を地域住民と関係機関が一体となって見守り、日常生活の支援を行うものである。

町では、平成19年度から全10地区で活動の展開を行っている。

現在、町全体のケアネットチーム数は83チーム、参加人数は189人となっている。一方、見守りなど支援の対象者数は196人である。要支援者に対し、実際のケアネット活動につながっているチーム数の割合は、町全体で42%だ。

地区によって、100%のところもあれば20%のところもあるなど、ばらつきがある。

このため、今後、情報交換会や研修会など、さまざまな機会を生かして、全体の取組み率をさらに引き上げていく必要があると考える。

**問** ケアネット活動の周知をどのように図っているのか。

**真岩課長** 制度の概要については、町社会福祉協議会が発行している「入善ふくし」や各地区の社協が年に数回発行する地区社協だよりも、活動を詳しく紹介している。

災害時要援護者台帳を地域の中で共有すべき  
日常的福祉活動にも役立てていく

**問** 災害時要援護者台帳の整備状況はどうか。

また、どのように活用しているのか。

**真岩課長** この台帳は、地域住民らによる迅速な救援体制の構築を目的としている。災害時の避難の呼びかけや誘導などに反映させるものだ。

町では、平成30年6月末現在における台帳登録者数は、2734人だ。民生委員・児童委員などにおいては、ケアネット事業などの日常的福祉活動にも役立ててもらっている。今後、町民の安全と安心確保のため、しっか

りと整備の充実を図っていく必要がある。  
**問** 災害時に台帳登録者に支援する組織の具体的な動きが感じられない。自主防災会とどのような連携強化を図っているのか。

**真岩課長** 町地域防災計画では、「自主防災組織は、民生委員・児童委員などの福祉関係者と連携し、個人情報保護に配慮し、災害時要援護者台帳の活用など、避難行動要支援者の避難支援方法について検討しておく」と明記されている。

毎年、町社会福祉協議会は災害救援ボランティア活動研修会を実施し、日頃から住民、関係機関の災害への意識を高め、行政、関係機関との緊密な連携による体制づくりを行っている。



五十里 忠茂 議員



設備の改善で学童保育現場の応援を

二部屋で運営の飯野学童保育  
町の責任で設備の改善を  
結婚・子育て 一時的に二部屋に分かれるが  
応援課長 不便なく円滑に運営



井田 義孝 議員

**問** 4月の飯野学童保育利用者見込み数は大幅に増え、70人と最大だった。3月議会で町は、二つに分ける必要はないと答

弁したが、実際には児童が多すぎて、恒常的に会議室と二部屋使っている。会議室は学童保育の施設ではない。設備の改善などで現場を応援すべきだ。

**清田結婚・子育て応援課長** 子ども1人当たりの面積要件は十分満たしている。

一時的に二部屋に分かれるが、何ら不便なく円滑に運営されている。

**問** 1人当たりの面積が1・65㎡は保育園児と同じだ。改善には町が責任を持つべきだ。

**清田課長** 現場とよく話し合いながら進めている。

学校に図書館司書を配置すべき  
司書教諭を配置している

**問** 町の小中学校は学校図書館司書がおらず、町立図書館司書が学校を巡回している。

司書の学校配置に国の財源がついており、町立図書館の活動の受け手として学校図書館司書を配置すべきだ。

**小川教育長** 町立図書館司書の派遣で他市町村にはない効果が上がっている。

全校に司書教諭を配置し、図書館司書と協力・連携している。

園家山の松枯れ対策は  
補正予算で伐倒  
来年度以降も対策検討

**問** 昨年、県の海岸林保全事業で民有地も含まれ伐倒処理されたが、まだ97本も残っている。

今後どう対応するのか。  
**窪野建設課長** 補正予算で3月までに伐倒したい。来年度以降も薬剤散布や調査を継続し、対応していきたい。

**問** 薄くなった林への補植や病害虫防除事業による対策を検討すべきだ。

**窪野課長** いずれも森林法に基づく森林指定がない。所有者および地区と協議が必要だ。

実践的な防災訓練を  
ワークショップを開催

**問** 県は、町の最高津波水位が10・2mとなり、7分で到達するとしている。

町が実際に即した訓練を指導すべきだ。  
**神子沢総務課長** どのルートでどこまで避難するかなど、地区と一緒に考えるワークショップを開いている。

避難訓練の実施には、可能な限り協力をしたい。

**問** 沈下している芦崎沿岸の離岸堤を測量調査し、住民に説明すべきだ。

**梅澤キラキラ商工観光課長** 海岸施設長寿命化調査の際、レーザースカナーで正確に計測する。



ひばり野小学校で実施見込みの複式学級に対し  
どのような対応をするのか  
教育長 教育環境の低下につながるよう  
早急に対応したい



充実した少人数教育を(ひばり野小学校)

**問** 児童数の減少により来年度から、ひばり野小学校で複式学級の対象となる学年が見込まれる。本町においては、過去

に例がなく、初めての事案であり、どのように把握しているか。  
**小川教育長** 小学校の学級は、県が定める学級編制基準に基づいている。その基準は「2つの学年児童で編制する学級」が「15人以下」であるとき

れている。  
この基準では平成31年度に、2年生、3年生の学年が複式学級の対象となる見込みである。

また、現在の児童数で推移した場合、平成33年度では、複式学級が2つとなる見込みである。

今後のひばり野小学校への就学の見直しも含め、各市町の教育環境につい



野島 浩 議員

ても参考にしながら調査しているところだ。

**問** 保護者会や地元の総意としては、今まで通りの教育環境、条件下での授業形態を維持できるように、専任講師の配置を強く要望しているが、どのように考えているか。

**教育長** 舟見、野中両地区におけるまちづくり懇談会で地区設定のテーマにも挙げられ、要望書も提出されていることから、保護者のみならず地域として大きな課題であると受け止めている。

町としては、複式学級のメリット・デメリットを整理し、複式学級解消教員の配置などを考慮し

た上で、町独自の学級編制基準のような一定のルールを定めることも一つの方法と考えている。

町としては、特に中心市街地において「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」を基本と考えている。

**コンパクトシティの基本的な考え方は効率的で暮らしやすいまちづくりが基本**

**問** 本町におけるコンパクトシティの将来像をどのように考えているか。

**町長** 人口減少など、急速な社会の変化に対応する必要から、都市全体の構造を見直し再構築することを推進している。

医療や福祉施設、商業施設や住居がまとまって立地し、効率的なサービスを提供することで生活利便性を向上させたい。

中心市街地以外の人も、各種生活利便施設へ公共交通によりアクセスできるように進めていく。

中心市街地に人口を集めさせるという考え方はなく、各地区の活性化に向けた取組みも併せて行っていくべきと考えている。

◎その他の質問  
有害鳥獣、耐雪型恒久電気柵について



陸上養殖されたスジアオノリ

## スジアオノリの陸上養殖の概要は

### キラキラ 海洋深層水を使い 大量培養システムで養殖実験

**問** スジアオノリの陸上養殖の概要と現状は。  
梅澤キラキラ商工観光課長  
スジアオノリは、食用となるアオノリ類の中で

最も美味で香りが良いとされている高級アオノリである。

自然界では、淡水と海水が混じり合っている汽水域で生息しており、徳島県の吉野川や高知県の四万十川が産地として有名である。

近年では生産量が減少し、かつては100トあった国内流通量が、現在では10トとなっており、その希少性から高価格で流通している。  
スジアオノリは成長が早く、培養から収穫までの工程は約6週間で、今年度内に5回の収穫を予定している。  
7月からの培養で、現



本田 均 議員

時点までで2回の収穫に成功している。

町としては海洋深層水を利用した新たな「入善ブランド」となることを大いに期待し、今後、事業化に向け企業側と協議していきたい。

**今年の除雪対策はどうか**  
きめ細かい除雪に小型ロータリー車増強

**問** 昨年度の教訓や町民要望を受け、今年度の除雪対策にどう取組むのか。  
**建設課長** 除雪対策本部を設け、本部長に町長、副本部長に副町長、教育長をおき、建設課員およ

び各課職員のもと、6班集体26名で対応に当たる。  
除雪協力業者は、3社増の37業者とし、41台の除雪機で行う。

また、町の所有機械を貸出する協業者は、1社増の18班、24台の機械で除雪に当たる。

これらを合わせて65台の機械で、車道29.1km、歩道9kmを除雪する。

また、今年度は小型ロータリー車1台を増強し、より細かい除雪に取組み、町民が安全で円滑な通行ができるように努めたい。

**旧西部、東部両保育所の今後の利用予定は今のところ利用計画は無い**

**問** 閉所された西部、東部両保育所の今後の取り

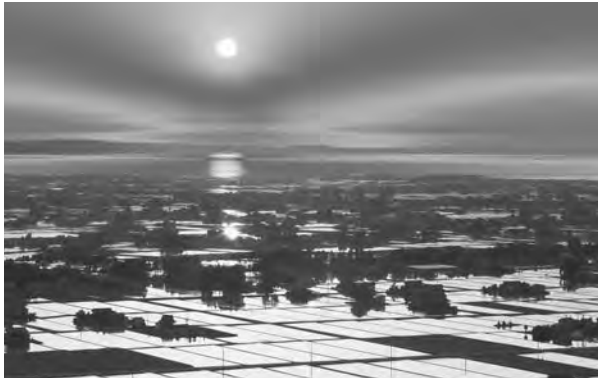
扱いはどうか。  
**町長** にゆうぜん保育所は、有利な財源である公共施設最適化事業の採択を受け整備をしたものである。

この事業は、統合により5年以内に既存施設の取り壊しなどによる床面積の減少が条件となっていることから、施設を引き続き、町有施設として再利用はできない。

今後は、建物の民間譲渡あるいは、解体と跡地利用の検討などの課題があり、全町的な視野で、土地利用について調査、検討していく。

「世界で最も美しい湾クラブ」総会を契機に  
下新川沿岸一帯の魅力発信を  
町長の  
町の田園風景と能登半島までの  
眺望がきく富山湾を国内外に発信

**問** 世界的なNGO組織である「世界で最も美しい湾クラブ」の総会が、2019年10月に富山県で開催される。



舟見山から望む富山湾

これを契機に富山湾の入り口に面した沿岸の町として、魅力発信にどう取り組むのか。

**町長** 「食」の魅力を発信するために、深層水仕込みカキの出店を計画している。

町に立ち寄るコースでは、「入善牡蠣ノ星」での食事や杉沢の沢スギで森林浴を企画している。参加者には町沿岸部の観光資源、自然環境、食などの多彩な魅力や環境保全などの取組みを現地で見て、感じていただく。富山県と沿岸9市町挙げて開催されるこの総会は、町のPRにまたと無い機会と捉えている。



田中 伸一 議員

洋上風力発電の事業認可などの報告はどうか

今年度事業認可を取得し商用運転を目指す

**問** (株)三井E&Sエンジニアリングが入善沖に計画している洋上風力発電事業について、海底の地質調査の最終結果や事業認可など、町はどのような報告を受けているのか。

**梅澤キラキラ商工観光課長** 今年度、経済産業省から事業許可を取得し、順調に進展すれば、2019年春頃から風車の製作を開始し、2020年に現地で風車建設工事に着

手する。

2021年1月には洋上風力発電の商用運転を開始する予定だ。

この事業が実現すると、民間企業では全国初の着床式の洋上風力発電となり注目されている。

北アルプス横断道路構想推進会議での決意は関係機関と連携を密にして取組んでいく

**問** 北アルプス横断道路構想推進会議の設立から1年余り経過するが、北アルプス横断道路の必要性をどう認識しているのか。

**町長**は、推進会議の副会長の一人としてどのような姿勢で臨むのか。

**町長** 北アルプス横断道

路が実現すれば、富山県と長野県を直結することで、関東圏とのアクセスが飛躍的に向上する。

人の動きや物流が高まることに加え、災害時における複数ネットワークとしても期待されている。

今年度は、3ルートの整理を行い、1本化に向けワーキンググループが設置された。

一定の整理ができた段階で、幹事会や推進会議で議論を進めていく。

今後も講演会を開催し機運を高め、県東部以外に富山県全体の運動としての展開が必要だ。

この構想が国家プロジェクトとして実現できるよう、関係機関と連携を密にして取組んでいく。



# レポート

## 庁舎整備検討特別委員会

11月19日に第8回庁舎整備検討特別委員会を開催した。

今回は、各地区で行われたまちづくり懇談会で出された住民の意見について、当局から報告を受けて、今後の庁舎整備について議論した。

**今後の方向性について当局の提案を求め**

まちづくり懇談会での住民の意見は、耐震補強や建て替えについてさまざまな意見が寄せられたが、おおむね耐震に対する庁舎整備の必要性については理解が得られたものと考えられる。

議会でも過去7回の委員会において、耐震工法や建て替えについての現地視察などを通して、調査研究をしてきた。

さらに、国の支援や借入に対する償還など、長

期的な財政シミュレーションについても十分に議論してきた。

以上の経過を踏まえ、当局から今後の方向性について12月定例会で何らかの提案を求めることとした。

**役場庁舎の建て替えを選択**

12月定例会本会議での代表質問に対し、町長は役場庁舎の建て替えを選択する旨の答弁をした。

これを受けて、今議会最終日の12月19日に第9回庁舎整備検討特別委員会を開催した。

同委員会は全議員で構成されているが、建て替えに対して委員から特段の異論は出なかった。

今後、建て替えについての場所の選定や耐震の工法について協議していくこととした。

## 議会改革特別委員会

10月19日に第6回議会改革特別委員会を開催した。

議会では、傍聴者やケーブルテレビで視聴する人にわかりやすい本会議の在り方について、委員会を重ね検討してきた。

12月定例会から一般質問は、従来の一括質問方式に加え、一問一答方式、分割方式を導入することとした。

**新しい質問方式導入に向け細部を確認**

新しい質問方式の導入に当たり、細部の確認を行った。

①時間切れの場合の対応について

・時間厳守を基本とし、質問時間満了をもって終了とする。

・すべての質問、答弁ができるように時間配分に留意する。

・通告した質問の一部を

省略する時は、どの項目を省略するのかを明確にしたうえで、議長の許可を得ることとする。

②答弁順について

・一括方式も含め、すべての方式で項目順の答弁とするよう変更する。

③反問権※について

・次回以降、時間をかけて議論していくこととした。

※反問権とは  
答弁する側が質問者に

対し、質問の趣旨や内容、根拠を問い返したり、代替案の提示を要求することができるとの権利のこと。

**模擬質問を実施**

12月定例会に備え、一般質問の実例を基にし、議場にて模擬質問を行った。

質問方式によって発言場所が異なることや、今までになかった注意点を当局とともに確認した。

**5名の議員が新方式を選択**

今定例会では、11名の質問者のうち3名が分割方式、2名が一問一答方式を選択し質問を行った。

事前の模擬質問などを行ったことで、特にトラブルは無かった。



# 特別委員会

## 交通網対策特別委員会

12月18日に第7回目の委員会を開催し、9月からの実証実験の中間報告を受け、課題と対策について議論した。

### 9月からの実証実験 中間報告の結果

#### ◇町営バス

のらんマイ・カー 1日の利用者数は、実験前の56・3人から55・2人と微減しているが、堅調に推移している。日中の舟見便の落ち込みも軽微である。

#### ◇デマンド交通

ウチマエくん 利用者数は実験前の42・6人から47・3人へ5人程度増加した。

これまでは利用者の5%が割引対象外の75歳未満であったが、実験中は10%に増えた。

課題は、予約時間優先の運行で乗合率が2・0



ルート変更された新幹線ライナー

8人から1・85人に低下したことである。

また、予約の複数案の提案などで予約方法が難しくなり、勘違いや予約忘れも発生している。

さらに、電話での対応に時間がかかり「何回かけてもつながらない」「早いもの勝ちで予約がとれない」などの苦情がある。

#### ◇入善新幹線ライナー

利用者は、実験前の16・8人から14・8人（平日

14・6人、土日15・3人）へ減少。

大半の利用者が、これまでと同じく入善駅、うらおい館で乗降している。企業26社は新ルートに對し好意的ではあったが、実際には速達性の低下やレンタカー、タクシーの利用などで使われておらず、新たな利用増加は見込みにくい。

### 主な議論と確認点

①町営バスについては、当面このままの路線で運行する。

②ウチマエくんについては、車の台数を増やす方法もあるが、現在の「予約時間優先」から「ルート優先」に切り替え、時間に余裕をみて当日予約も吸収していく。

予約センター機能を強化し、予約方法も複数候補の提示ではなく最良のものだけ伝える。

③新幹線ライナーについては予約制にするか、元の1ルートに戻すかという意見も出たが、町としては、新幹線駅から入善まで行く手段がないというのを避けたい。

## 環境・下水道対策特別委員会

12月10日に委員会を開催し、長寿命化計画や下水道会計の今後の見通しについて説明を受けた。

### 農業集落排水と公共 下水道との統合へ

小摺戸地区の農業集落排水と公共下水道の統合工事は、新年度に開始する。

不要となる小摺戸浄化センターの活用を検討中である。

### 来年度以降から設備 更新開始

長寿命化では、基本計

ルート変更などは急にはできず、3月まで実験で見極め、新年度に方向性を示し一定の結論を出していく。

画策定に向け各設備の健全度の確認をしている。来年度以降、計画に沿って設備の更新をしていく予定だ。

### 下水道料金値上げを 視野に

新たな試算によると、下水道会計はこのままで推移すると、4年後に赤字に転落することがわかった。

委員からは、下水道使用料の値上げが必要、と思うが、少しでも町民の負担が少なくなるような良案が出てくることを期待するなどの意見が出た。

# 事業紹介 結婚応援事業

町では、「ストップ人口減少」の一助として、平成27年から結婚応援事業「それ行け！結婚プロジェクト」をスタートした。

独身男女の出会いの場を創出し、これまでに100組以上のカップルが誕生。うち5組が成婚している。

また、婚活サポーター「入善世話やき隊」と連携しながら、独身男女の婚活を支援している。

## 1. それ行け！

### 結婚プロジェクト

※実績は平成27年から平成30年12月末現在のもの

#### ①婚活イベント

カキやスイーツなどを囲み大人数で交流する「婚活パーティー」、共同でたこ焼き作りをしながら交流する「婚活サークル」など、合わせて年6回程度開催している。

▼23回開催 868人参加

#### ②お見合いサポート

事前に聞き取りしたプロフィール

ルなどを基に、1対1で男女を引き合わせるお見合い事業。申し込みは、WEBや担当課窓口で随時受け付けている。

▼お見合いを18回実施 約60人登録

#### ③婚活セミナー

婚活の知識や婚活イベントでの注意点などを伝える無料セミナー。

本年度は、婚活イベントの参加者などを対象に年1回開催した。

▼4回開催 約200人参加



## 2. 結婚相談

「入善世話やき隊」が独身男女やその家族を対象に、結婚や婚活に対する悩みの相談を受け付ける。

○日時 毎月第3土曜日 午後2時～4時

○場所 サンウエル応接室

▼平成30年10月～ 3件

## 3. 結婚祝い金

2年以上入善町に住む意思のある新婚夫婦に対し、町から結婚祝い金1万円を贈呈。

▼平成27年～ 139組に交付 (平成29年度未現在)

## 4. 新婚世帯住居費等 支援事業補助金

新生活を始める夫婦の住居費や引っ越しなどに、最大30万円を助成。

▼平成28年～ 40組に交付 (平成29年度未現在)

## 5. 結婚記念パネル

婚姻届を提出される夫婦に「結婚記念パネル」を贈呈。パネルの右側には結婚記念証、左側にはメモリアル婚姻届が付いている。

▼平成30年4月～ 48組

## 6. 結婚記念撮影ブース

結婚などの記念撮影に利用できるブースを庁舎の正面玄関に設置。

ブースの背面パネルは縦横1・8倍。彩り豊かなチュールリップでハートを描いている。

## 7. 結婚・子育て 応援サイト

結婚応援事業や子育て情報を詳しく紹介した専用サイトを婚活イベントの申し込みなどでも受け付けている。

専用サイトのQRコード。



### 今後の課題と期待

結婚応援事業は、縁を結ぶお手伝いをする事業だけでなく、一朝一夕に「ストップ人口減少」につながるものではない。

まずはこの事業を多くの町民に知ってもらう、参加、登録してもらうことで、いずれは成婚につながってほしい。

# 編集の窓

新年おめでとうございま

す。 昨年は、一年を表す漢字として「災」が選ばれたように、非常に多くの災害が日本列島を襲いました。改めて災害に対する備えの大切さを感じた一年でした。

町議会としても日々怠ら

ず、防災・減災対策に努めて参ります。

本年の干支は「亥」。古くから、イノシシの肉は万病に効果があるとされ、無病息災の象徴でもあります。今年も皆さんが健康で平和な年になることを願います。本年もよろしくお願いたします。

### 議会広報編集特別委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 議長   | 佐藤 一仁 |
| 委員長  | 野島 浩  |
| 副委員長 | 中瀬 淳哉 |
| 委員   | 松田 俊弘 |
| 〃    | 五十里国明 |
| 〃    | 田中 伸一 |
| 〃    | 鍋嶋慎一郎 |